

明治大学平和教育登戸研究所資料館 第3回企画展 キャンパスに残っていた偽札印刷工場 — 5号棟調査報告 — 2013年3月2日（土）まで開催！！

11月21日（水）より、当館第3回目の企画展「キャンパスに残っていた偽札印刷工場—5号棟調査報告—」が開催されています。5号棟は、昨年2月下旬から3月にかけて取り壊された登戸研究所第三科が使用していた木造平屋建ての建物です。長年、元研究所所員の証言などから中国 蔣介石政権の法幣（法定貨幣）を偽造していた「偽札印刷工場」であったとされてきましたが、今回解体するにあたり詳しく調査を行ったところ、解体時の調査記録、明治大学に残る工事記録や図面などからもほぼ確実に5号棟は「偽札印刷工場」であったことがわかりました。また、5号棟の外装は登戸研究所時代の姿を留めていましたが、内部は戦後より数度の改装を得ていたことがわかり、解体前に残っていたU字構やドラフトチャンバーなどの設備は明治大学が設置したものであることがわかりました。

今回の企画展では、この調査で新たに判明したことを解説するとともに、今となっては貴重となった5号棟の写真や映像とともに5号棟の姿を再現します。また、当時使用されていた紙幣印刷技術や印刷機械の資料から、5号棟をはじめとする第三科で行われていた偽造紙幣製造の実態にもせまります。

それでは、展示の内容をみどころとともにご紹介いたします。

写真・映像で見る5号棟

川崎市を代表する写真家・小池汪氏と資料館が5号棟を撮影した写真から14点を選び展示しています。解体直前に撮影したこれらの写真より、明治大学生田キャンパス内にどのような姿で5号棟が残っていたのかをご紹介します。

明治大学がこの地を購入した1950年には、登戸研究所の建物が木造82棟と鉄筋コンクリート造7棟残っていました。その後、倒壊の危険性などから取り壊しが行われ、2011年時には5号棟が最後の木造建造物として残っていました。（資料館は現存する最後の鉄筋コンクリート建造物です。）鉄筋コンクリート造の資料館とはまた違う印象を与える5号棟を、写真

と映像でご覧ください。



展示写真より「5号棟外観」小池 汪氏 撮影

また、館内レストスペースでは、資料館が撮影した5号棟外観と内部の様子を紹介する映像プログラム「偽札製造工場・5号棟を歩く」（約15分間）を上映しています。企画展開催期間中の特別プログラムですので、ぜひご覧ください。



レストスペースにて上映中「偽札製造工場・5号棟を歩く」より

5号棟部材展示

5号棟解体時に収集したボルトや外壁材、雨どいや瓦、割く石などをその用途を解説するとともに展示しています。また、5号棟を象徴していた「5」表示プレートも展示します。



5号棟部材展示の様子

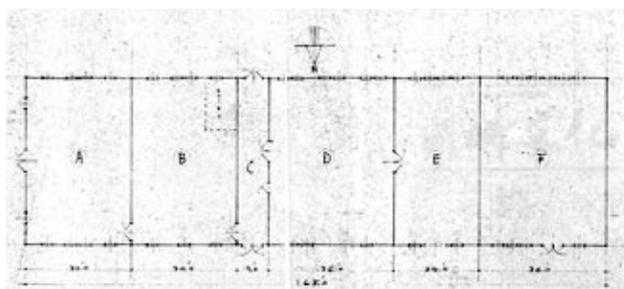
第三科の中の5号棟の役割

ここでは第三科元所員の証言や当時の航空写真より、5号棟が第三科の中でどのような役割を果たしていたかを読み解きます。資料館に残っていた証言を細かく検証することにより、5号棟を含めた3棟の南方班なんぽうはんの建物とっぽん おうはんが、凸版・凹版の各印刷を役割分担していたことが見えてきました。また、一般的な紙幣印刷工程と各建物の役割を照らし合わせることで、登戸研究所で行われていた偽札印刷工程が推測できました。さらに、航空写真を今回詳しく調査したことにより、第三科南方班を囲んでいたと証言が残る板塀の影らしきものを認めることができました。その解説も展示しています。

図面から見る5号棟の役割

今回の調査により、明治大学から新たに数点の5号棟の工事記録が発見されました。特に明治大学が登戸研究所跡地を購入した直後（1950年頃）に作成されたと推測される図面が発見されたため、登戸研究所時代の5号棟に近い姿をみることができます。また、これらの工事記録を整理することで、明治大学購入以降にどのような改装が行われたのかが判明し、登戸研究所時代から残っていた部分と、改築・改装・敷設された部分を

区別することが可能となりました。



1950年頃に作成された5号棟図面（一部）

印刷技術について

登戸研究所は、世界的にみても大変水準の高い印刷技術で偽札を製造していました。それは、当時世界最高峰の印刷技術を持っていた米英が製造した法幣を真似なければならなかったからです。それでは、登戸研究所では、どのような印刷技術や印刷機が使用されていたのでしょうか。今回の調査では、当時登戸研究所に印刷機を納入した会社の資料を発見することができました。その資料も交えて、どのような印刷機が使用されていたのかを明らかにします。また、登戸研究所で用いられていた印刷技術を解説するとともに、オリジナルの法幣を通して、当時の印刷技術を来館者の方に観察してもらう「法幣を観察してみよう！」のコーナーを設けました。



「法幣を観察してみよう！」コーナーの様子

企画展関連イベント

山田朗館長による展示解説

下記日程で、企画展の解説を行います。5号棟が「偽札印刷工場」であった可能性を高めるに至った調査の様様を、明治大学文学部教授でもある当館館長山田朗が第三科の活動内容とあわせて詳しく解説いたします。ぜひご参加ください。

2013年2月23日（土）
13時～60分程度

※開始5分前までに資料館受付前に、集合してください。
※先着20名程度



11月に行われた展示解説の様子

登戸研究所製偽札 現物展示

下記期間中、普段はレプリカでしか見られない登戸研究所で製造した偽札（偽造中国交通銀行6連10元券）のオリジナルを展示します。貴重なこの機会をお見逃しなく！

2012年11月21日（水）～12月22日（土）
2013年2月20日（水）～3月2日（土）



展示されている偽札
渡辺賢二氏寄贈



登戸研究所資料館のある明治大学生田キャンパスの敷地には、旧陸軍のマークがいった二つの消火栓が残っています。一つは図書館前、もう一つは食堂前です。さて、この二つ、見比べてみると高さが違いますよね。実は、これらは元々同じものなのですが、学食棟前の消火栓は、明治大学が新しい食堂館を建設する際に、歩道との段差を解消するために盛り土をしたため下の部分が埋もれてしまい、この高さになりました。



食堂館前の消火栓。高さ約40cm。旧陸軍の五芒星(☆)のマークが特徴的。

登戸研究所が存在した戦争の時代、これら消火栓は重要な建物や火事の起こりやすい場所に設置されました。生田キャンパスの歴史を紐解くと、研究所があった当時、それぞれの消火栓は、所長らがいた本館（図書館の北側にありました）と、食堂館のあたりにあった石炭置場を守っていたということがわかります。

今では本来の役目を終え、消火のための水を噴出させることはできませんが、これら消火栓も登戸研究所をしのび立派な戦争遺跡です。



図書館そばの消火栓。台座を含めた高さ約85cm。食堂館前の消火栓もかつてはこれと同じ様子で佇んでいた。

★来館者が20,000名を突破しました★

2012年7月11日、登戸資料館は開館後2年3か月で来館者が20,000名を突破しました。

その記念すべき20,000人目のお客様は川崎市立稲田中学校の5名の生徒の皆さんで、山田館長と記念写真の撮影、記念品の贈呈を行いました。

セレモニーの後、学校の「地域学習」の一環として山田館長より解説を受けながら資料館を見学。自分たちの住む地域にかつて存在した「秘密戦の研究所」について学習を深めました。次々とたくさんの質問が飛び出し、生徒さんたちが熱心にメモを取る姿が印象的でした。



山田館長と川崎市立稲田中学校の皆さん

今夏も各種平和イベントで登戸研究所資料館が紹介されました。

<イベント一覧>

パネル展示『風船爆弾の風景 2011』および解説会：
ずし平和デー（8/24～26、25日に解説会開催）

登戸研究所資料館紹介パネル展示：

川崎市立東生田小学校「平和展」（9/1～5）、市川平和展（9/26～30）、
パネル展「戦争と医の倫理」（9/14～10/14、11/16～21、京都市内、
都内計3か所で巡回）

ありがとうございました！

資料館からのお知らせ

2013年1月～3月にかけて、以下の2点が常設展示に加わります。

第一展示室「日本高等拓植学校」(仮題)

登戸研究所がこの地に来る前は日本高等拓殖学校(以下「学校」)がありました(第一展示室の1936年撮影の航空写真に写っている建物です)。この学校は、当時の衆議院委員、上塚 司がアマゾン開拓の指導者育成のため1932(昭和7)年に設立、1937年に閉校しました。(ノ)

新設展示のお知らせ

ここでは、登戸研究所以前に存在した「日本高等拓植学校」について写真を中心にをご紹介します。

第五展示室「濾過筒」

以前は、第五展示室で来館者の方に直接さわっていただけましたが、2013年3月より展示ケースを設けることとなりました。

その内訳は、濾過筒が縦に16本、横に12本、奥に2本入り、計697本設置されます。

どちらの展示もお楽しみに!!!!

「戦争と医の倫理」 展示について

2012年9月12日(水)から11月5日(月)まで、資料館で「戦争と医の倫理」展のパネル展示が行われました。戦後、日本とドイツは、人命を守るべき医師・医学者の「戦争医学犯罪」などの実態をどのように検証し、その後の医学教育やの倫理に生かしてきたのかを明らかにする展示です。「戦争と医の倫理」来館者アンケートでは、「軍事正当化の世相ですが、できることがある、と考えさせられました」とありました。

登戸研究所 開催のお知らせ

登戸研究所資料館主催

山田朗館長(明治大学文学部教授)、渡辺賢二明治大学兼任講師による 登戸研究所見学ツアー

明治大学構内に残る登戸研究所史跡をめぐるあと、解説つきで資料館をご案内いたします。

開催日：山田 朗 館長 ガイド日
2013年2月2日(土) / 3月23日(土) / 3月30日(土)
渡辺賢二先生 ガイド日
1月12日(土) / 1月26日(土) / 2月16日(土) /
3月9日(土)

集合場所：午後1時 生田キャンパス 中央校舎1階ロビー

内容：午後1時 明治大学生田校舎内 登戸研究所史跡案内

午後1時半頃 登戸研究所資料館 見学

午後3時頃 解散予定

参加費：無料

《学外の方は要事前予約》

*ツアー当日の午前中まで受けつけます(044-934-7993まで)

12月13日現在の来館者人数は
23,490人です。

12月23日(日)～2013年1月8日(火)までと、
2013年1月19日は、**冬季休業および入試のため休館。**

〈開館のご案内〉

水曜日～土曜日 午前10時～午後4時まで

*10名以上の団体予約を希望する場合は、原則、見学予約日の1か月前までに、電話またはメールにて事前に予約してください。

*団体見学の場合は、日曜日でも予約可能です。ご相談ください。ただし、大学の事情等でお断りする場合がございますので、ご了承ください。

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館
〒214-8571

神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993

Mail：naborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/